

PROGRAM

チエロ組曲 第3番 ハ長調

バ ッ ハ

ヴィオランナタ

ヒンテミット

エ レ ジ 一

ブリテン

セカコン四

15 18

エレジー

ストラヴィンスキイ

カブリッヂ

ヴュータン

インタビュー 岩子 達雄

四季のコンサート 春

1985年3月28日(木) PM 6:30

浜松市民会館大ホール

主催：浜松音楽友の会

(२८५) 手 誌 幷 每

卷一



今井信子ヴィオラリサイタル

無伴奏 チェロ組曲 第3番 ハ長調

バッハ (1685~1750)

6曲の無伴奏チェロ組曲は、バッハがケーテンの宮廷で活躍していた1720年頃に作曲されたものである。各作品は、いずれもバロック時代特有の組曲の形式によって書かれている。

つまり、前奏曲と5つの舞曲から構成されている。これらの作品はバッハの傑作中の傑作であり、チェロだけでなく、いろいろな楽器で演奏されることも多い。今夕演奏される第3番ハ長調は、次のような構成になっている。

- ① 前奏曲 (3/4拍子 この曲全体の中で最も重厚な部分)
- ② アルマンド (4/4拍子 フランスで発達したドイツ風舞曲、テンポは中位)
- ③ クーラント (3/4拍子 フランスの古い舞曲、力強く、活気に満ちている)
- ④ サラバンド (3/4拍子 アラビアで生まれ、スペインで発達した莊重な舞曲)
- ⑤ ブーレー I, II (2/2拍子 フランスの舞曲、生き生きとした明快なリズム)
- ⑥ ジーグ (3/8拍子 イギリス起源の舞曲、活発で急速なテンポの舞曲)

エレジー

ブリテン

昨年6月、イギリスで世界初演された。今夕の演奏は、日本初演になる。

無伴奏ヴィオラのためのソナタ Op. 25の1

ヒンデミット (1895~1963)

ヒンデミットは20世紀前半のドイツを代表する作曲家である。そしてそれに加え優れたヴィオラ奏者でもあったため自らが演奏することを考えて作曲した4曲の「無伴奏ヴィオラのためのソナタ」を残している。

ヴィオラという楽器は作曲家にとってはまだ扱いにくい楽器であり、独奏曲もヴァイオリンに比べると圧倒的に少ないが、このソナタはヴィオラをよく知り尽くし、どうしたら最大限に生かすことができるかということを会得しているヒンデミットならではの作品と言えよう。

さて、今夜演奏されるOp. 25の1はヒンデミットの全作品中でも比較的早い時期、いわゆる「新即物主義」と呼ばれる時代に作曲されたもので、無伴奏ヴィオラ・ソナタの中でも特に有名で技術的にも大変高度なものである。曲は5楽章からなり、いずれも調性や拍子の明示がない。

ヴィオラ・ソロのためのエレジー

ストラヴィンスキー (1882~1971)

無伴奏で弱音器を付けたヴィオラのための作品で、あるヴァイオリニストの思い出として1944年に書かれた。

曲全体を通して、おもに2つの旋律が静かに語り合うように流れていく。

ストラヴィンスキーは、1959年(昭和34年)に来日し、N響を指揮して自作の演奏会を催している。